

高校の在り方専門委員会

検討テーマと委員ご意見

第1回専門委員会でのご意見(抜粋)

- 知識を体験で磨いていく「知のキャリア教育」が必要。
 - プレゼンテーションスキルや英語力が重要。高校だけで完結せず、社会の力や大学との連携が必要。
 - リーダーシップを発揮しており、グローバルな視点も持つ経営者の話しを聞くなど、夢を鼓舞するような体験の場が必要。
 - 人生のデザイン、働くことや社会人としての生き方をデザインすることが重要。将来何をしたいかを見据えて進路を考えるべき。
 - 岐阜県は中小零細企業が多く、ものづくり関連の企業が多い。若い力が外に出て行くのではなく地域に根付いて地域を活性化していく必要がある。
 - 学校外の施設等での実体験によって生徒は驚くほど成長する。
 - 自立した子どもをいかに育てるかが重要。
 - 生徒の多くが自分の発言に自信が持たず、相手の考えをつかめない。社会に必要なコミュニケーション能力や人間関係を高校ですっかり育てたい。
- 他

第2回以降の検討テーマ

① リーダー性やグローバルな能力の育成

- 世界や日本、地域社会でリーダーシップを発揮できる能力の育成
- グローバル社会で国際的に活躍できる能力の育成

② 社会経済の基盤を担う能力の育成

- ふるさとを支える地域社会人の育成
- 多様な進路目標を実現するための能力の育成

③ 自立して社会生活を営む能力の育成

- 多様な学習ニーズを持つ生徒への支援
- 多文化共生のための教育環境の整備

高校改革リーダーデザインプロジェクト推進事業
【H25県教育委員会新規事業】
教育改革に取り組み3領域

(ア) リーダー性やグローバルな能力の涵養、高い課題発見力、課題解決能力の育成

例) 岐阜高校「グローバルリーダー養成事業」

(イ) 高校段階の学力の定着・向上、体系的・実践的なキャリア教育の推進

例) 恵那農業高校「アグリ・サイエンス・ハイスクール～地域産業人の育成と将来のスペシャリストを目指す～」

(ウ) コミュニケーション能力等の基礎的資質・能力の育成、共生教育の推進

例) 東濃高校「コミュニケーション能力向上のための演劇表現ワークショップ及び多文化共生」

リーディングプロジェクト採択校一覧

資料2

学校名	校長名	電話番号	事業の名称	領域
岐阜高校	丹羽 章	058-251-1234	グローバルリーダー養成事業	ア
<p>◎グローバルリーダーを養成する教育環境を構築する。 ○グローバルリーダーの養成を目指し、政財界の第一線で活躍している人やノーベル賞級の研究者による講演会を開催する。 ○最先端の研究を進める国内外の企業・研究施設における研究に触れることによって、柔軟な発想を発揮する機会とするとともに、研究に対する意識・スキルの飛躍的な向上を図る。また、国外の研究活動に参加することで、最先端の科学技術等に触れるとともにコミュニケーション能力や表現力等の外国語能力の向上を目指す。</p>				
岐山高校	中島 潤	058-231-2905	探究型教育システム開発	アイ
<p>◎探究型教育システムを開発する。 ○生徒自らが課題をもち、仮説を立て、実験等で検証する探究型授業を構築する。 ○大学や企業と連携し、体験的な活動や実習、実験に参加することで、先端研究に触れ、研究への興味・関心を深める。 ○岐阜市と連携し、岐阜科学塾やサイエンスフェスティバルに参加し、科学的思考力を育む。 ○学校で学んだ知識を、大学等の研究機関で課題解決型学習をすることによって応用し、地域社会で発表することによって学習意欲を高めていく「知識のキャリア教育」を行う。</p>				
岐阜商業高校	服部 哲明	058-231-6161	Be the CEO Project（「生徒全員が社長」プロジェクト）	ア
<p>◎地域におけるビジネス社会をリードする人材を育成する。 ○会社「県岐商Lob(仮称)」を設立し、その経営を通してマネジメント能力を育成し、社会貢献の意義を学ぶとともに、県内の中小企業において社長秘書として勤労体験を行う。 ○企業との協働によるスマートフォン・タブレットアプリの開発や県産品を海外に向けて販売する海外向けネットショップビジネスの展開を通して、企画力・IT能力を育成する。 ○その海外ネットショップビジネスを展開するために必要な生きたビジネス英語能力を養成し、英語による発信力も育成する。 ○eビジネス教育において世界的な先進校である韓国のソンインe-ビジネス高等学校を視察したり、台湾・韓国の高等学校と先進的な取組をしている鹿児島商業高等学校とも連携し、eビジネス教育の組織・体制を構築する。</p>				
揖斐高校	相崎 冬美	0585-22-1261	揖斐高版デュアルシステムの開発～揖斐高 next innovation（就業実習への取組）～	イ
<p>◎連携型中高一貫校におけるデュアルシステムを研究する。 ○地域に根ざした連携型中高一貫校の強みを活かし、地域の外部リソース(行政、企業、商工会議所)との連携による教育資源を活用したデュアルシステムの研究、実践を行う。 ○学校設定科目「デュアル実習」の開設に向けて、単位認定の就業実習科目開設のための研究を行う。</p>				
大垣工業高校	神谷 政人	0584-81-1280	グローバルエキスパート育成事業～世界を元気にする技術者を育てる～	アイウ
<p>◎国際的に活躍できる工業技術者を育成する教育環境を構築する。 ○来年度のスーパーサイエンスハイスクール事業への参加を見据えた取組を行う。 ○地元企業の海外工場や事業所を訪問し、現地生産現場体験を行う「海外インターシップ」を実施する。 ○英語で書かれた数学や理科、工業などの内容を扱った教材を用いて、実践的、実用的英語の授業を展開する。 ○大学の研究室で先端技術を学んだり、地元企業で生産管理手法を学ぶなど、産業界や大学と高校が連携した活動を行う。</p>				
関高校	安藤 敏彦	0575-22-5688	「地域の将来を担う人材は地域の教育機関で育てる」ことを目指した併設型中高一貫校設立のための取組	ア
<p>◎グローバル人材を育成する併設型中高一貫校設置に向けての調査研究を行う。 ○関市教育委員会“夢プラン”に協力、参加し、地域との連携の促進と、中学生との交流活動を進める。 ○使える英語力の育成を目指して、英語の授業改革を行い、英語スピーチコンテストや英語ディベート大会へ参加する。 ○1年生全員にTOEFLジュニアを受検させ、英語能力の測定を行う。 ○英語科専用教室を設置し、電子黒板等のIT機器を利用して、コミュニケーション活動を行う英語授業を展開する。</p>				

学校名	校長名	電話番号	事業の名称	領域
東濃高校	沢井 和弘	0574-67-2136	コミュニケーション能力向上のための演劇表現ワークショップ及び多文化共生教育	ウ
<p>◎コミュニケーション能力を高める教育課程の実践研究を行う。</p> <p>○外部講師を招き、1年生全員に演劇表現ワークショップの授業を実施し、生徒の自己表現力とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>○学校設定科目としての「演劇表現」を研究する。</p> <p>○外国人生徒に対しても、演劇表現の手法を用いて、日本語能力の向上を目指す。</p> <p>○日本語検定を実施し、外国人生徒の日本語能力を測る。</p>				
恵那農業高校	原 要	0573-26-1251	アグリ・サイエンス・ハイスクール ～地域産業人の育成と将来のスペシャリストを目指して～	ア
<p>◎地域産業に貢献できる農業人材を育成する。</p> <p>○大学や地域の協力を得て、オリジナル品種の作成や環境保護活動に取り組む学校設定科目「バイオサイエンス」の研究を行う。</p> <p>○耕作放棄地の取得から作物生産までを体験し、その農地を活用した地域交流を目指す学校設定科目「フロンティア」の研究を行う。</p> <p>○農作物の生産と販売を学ぶ学校設定科目「アグリビジネス」の研究を行う。</p>				
高山工業高校	高木 喜弘	0577-32-0418	“キャリア教育”とサテライトキャンパス“飛騨の匠工房”開設プロジェクト	イ
<p>◎サテライトキャンパスによる地域資源を活用した教育活動の充実を図る。</p> <p>○高山市にサテライトキャンパス「飛騨の匠工房」を開設し、地元企業と連携して開発した製品や飛騨の匠の伝統を受け継いだ伝統工芸品を制作、販売する。</p> <p>○“ものづくり体験教室”を開催し、地域の人々に工業高校に興味をもってもらうとともに、生徒のコミュニケーション能力を育成する。</p>				
華陽フロンティア高校	加藤 知之	058-275-7185	「いつでも、だれでも、元気に、いろいろ」学べる学校づくり	イウ
<p>◎半年ごとに単位認定できる教育課程の研究を行う。</p> <p>○年度途中でも編入学等ができる「半期単位認定」のためのカリキュラム等の研究を行う。</p> <p>○外部講師の指導のもと、学校設定科目「演劇表現」の充実によるソーシャルスキルの育成及び学校設定科目設置を視野に入れた教育課程の研究を行う。</p>				

※上記10校のほか、可児高校及び八百津高校において、研究協力校として、今年度教育改革に向けた調査研究を行うこととしている。

◆拠点校の取組 学校名【 岐阜県立各務原高等学校 】

(1) 実施内容と評価

①CAN-DO リストの形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握・公表及び指導への反映（生徒の学習状況をふまえた、必要に応じた見直しを含む。）

※（2）の指標①に係る結果分析を含める。

1) CAN-DO List の改定

平成 23 年度に本校独自で行った授業プロジェクトの成果と課題に基づき、下記の暫定的 CAN-DO List を、各教科年間目標として設定した。この課程では、オーラルコミュニケーション→2年生ライティング→3年生ライティング、英語 I→英語 II→リーディングという2つの大きな中心となる流れを決め、それぞれの中で3年間を見据えた、連続性のある到達度目標を設定した。

科 目	目 標
英語 I	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、2分程度の即興性のある自然な会話ができる。 ・先生の説明を聞いて理解し、その通りに作業ができクラスメイトの意見を聞いて理解できる。 ・身近な話題について、100語程度の英文を書ける。 ・基本単語 150 語の読み物を理解できる。
英語 II	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、5分程度の即興性のある自然な会話ができる。 ・先生の説明を聞いて理解し、その通りに作業ができクラスメイトの意見を聞いて理解できる。 ・多読の時間で選んだ本についてのポスターを作り、発表することができる。 ・基本単語 300 語の読み物を理解できる。
Reading	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の指示や説明を聞いて理解し、その通りに作業や課題ができ、クラスメイトの意見や話を聞いて理解できる。 ・身近な話題や読んだ本について、150語程度の英文を書ける。 ・教科書だけでなく、多読を通してさまざまな話題の読み物を理解することができる。 ・身近なものから社会的な話題について、5分程度の即興性のある自然な会話ができる。
Oral Communication	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題についての簡単な英語を聞いて、その概要を理解することができる。 ・簡単なテーマについて、自分の意見を1～3文の英語で話すことができる。 ・日常的な話題について、ネイティブスピーカーと2分程度、英語で対話することができる。 ・上記のコミュニケーション活動を行なうための基礎的な文法事項を学ぶ。またその知識を活用して10文程度の英文エッセイを書くことができる。
Writing (2年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題について、自分の考えを100語ほどの文章で書けるようにする。 ・身近な話題について、2～3分の即興性のある自然な会話が出来るようにする。 ・様々な活動を通し、自律的に英語学習に意欲を持って取り組めるようにする。
Writing (3年次)	<ul style="list-style-type: none"> ・やや社会的な話題について、自分の考えを150語～200語ほどの文章で書けるようにする。 ・やや社会的な話題について、3分～5分の即興性のある自然な会話が出来るようにする。 ・様々な活動を通し、自律的に英語学習に意欲を持って取り組めるようにする。

CAN-DO List 案作成の際、スピーキングテスト rubric の criteria や生徒アンケートの descriptor を元に、それぞれ4技能の段階的な達成度を設定し、CAN-DO List 案を作成した (Appendix 1)。

(2年 Writing)
 2nd-year Writing
 Topic 4
 1. Brainstorming

Trip to Okinawa



★Fill in the boxes with the name of places you visited in Okinawa and some things you did in each place. Use your dictionary for this activity.

Where did you visit in Okinawa?	What did you do there?	How did you feel there?
①		happy, excited, impressed, sad, scared, unbelievable, その他: _____
②		happy, excited, impressed, sad, scared, unbelievable, その他: _____
③		happy, excited, impressed, sad, scared, unbelievable, その他: _____
④		happy, excited, impressed, sad, scared, unbelievable, その他: _____
⑤		happy, excited, impressed, sad, scared, unbelievable, その他: _____

2. Three questions:

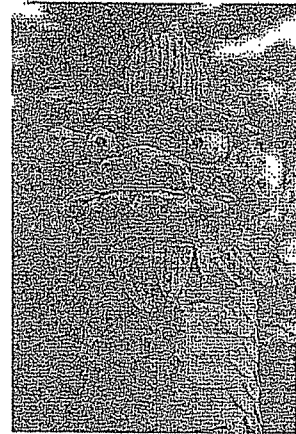
Write your answers in 1 ~ 2 sentences.

1) What did you enjoy most in Okinawa?

2) What do you recommend most about Okinawa?

レコメンド
 (recommend: 薦める)

3) What did you learn in Okinawa?



Conversation Strategies

Three Steps!



[Examples]

A: Hi, how ya doin'?

B: Pretty good! How 'bout you?

A: Great, thanks. So, which place in Okinawa was the most impressive?

B: Let me see... Neo Park Okinawa was the most impressive!

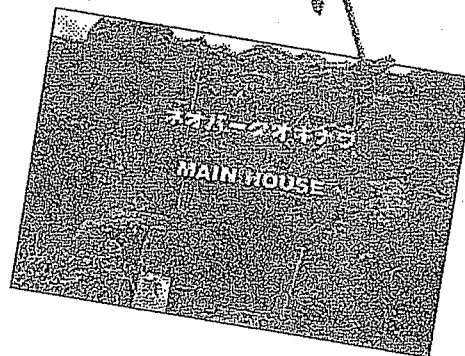
A: Neo Park Okinawa! → That's nice. → Why?

B: I saw a lot of beautiful birds there.

A: Oh, beautiful birds. → That's great! → What kind of birds?

B: For example, there are many flamingos.

A: Flamingos! → Sounds exciting!



★ Now, interview your classmates and try to follow the three steps!

1. What did you enjoy most in Okinawa?
2. What do you recommend most about Okinawa?
3. What did you learn in Okinawa?

第2回 高校の在り方専門委員会

学校支援課

「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」 について

<参考資料>

1. 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」について
2. 恵那高等学校の事例
3. 岐阜農林高等学校の事例
4. 岐山高等学校の事例

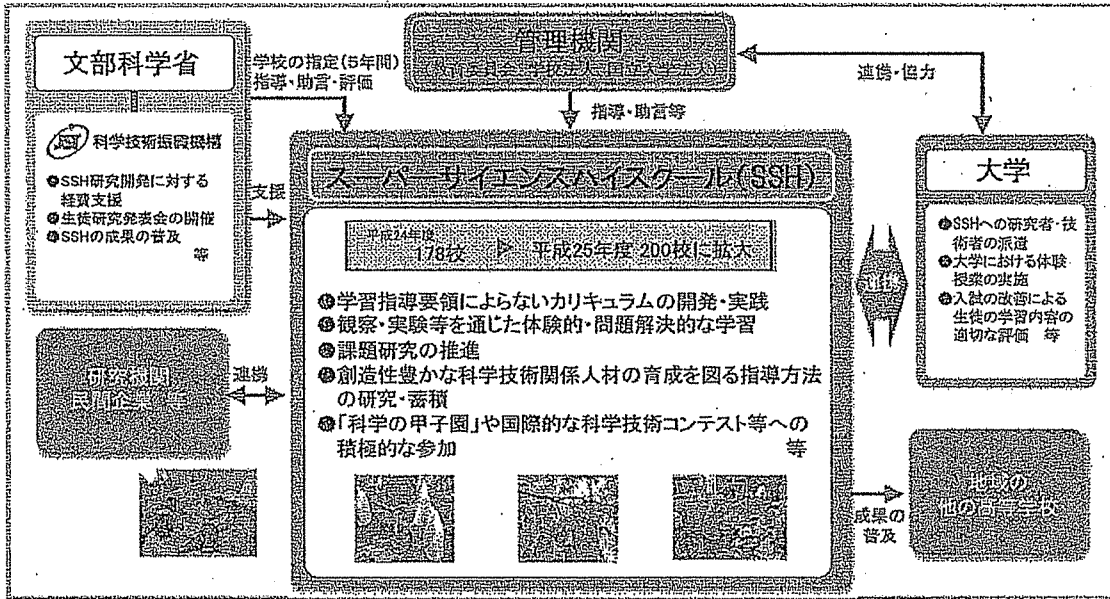
<添付資料>

1. 「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」について

文部科学省が指定する本事業は、将来の国際的な科学技術人材の育てることをねらいとして、理数系教育の充実をはかる取組で、全国的には平成14年度から実施されている。

科学技術、理科・数学教育を重点的に行うSSHでは、大学や研究機関等とも連携して魅力的なカリキュラムの開発や、独自性のある研究課題の取り組むこと等をとおして、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな人材の育成に取り組んでいる。

平成25年度は全国で201校、岐阜県では、恵那高等学校と岐阜農林高等学校の2校が指定を受けている。



2. 恵那高等学校の事例(H16~18, H19~23, H24~28)

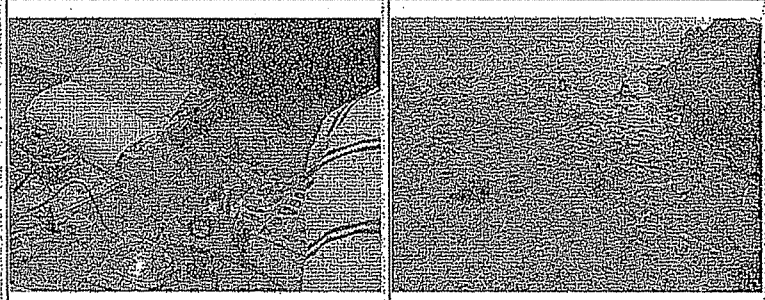
「『科学の手法』と『真の国際性』を兼ね備えた人材の育成」を研究開発課題とし、「地域や海外との連携」による社会観や倫理観、国際感覚、言語能力の育成などに取り組んでいる。大学と連携した活動として、大阪大学や京都大学から外国人講師を招き、英語による研究内容の講義を開いている。また、「サマーサイエンスセミナー」では、理数科1年生が2泊3日で福井県立大学海洋生物学部の指導を受け、実験や生物採集及び観察などの体験を行った。他にも名古屋工業大学をはじめ多くの大学から先端科学の講座などを受けている。

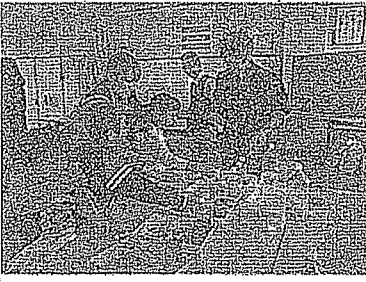
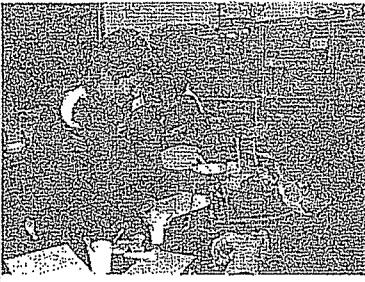
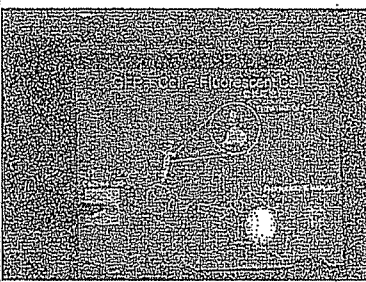
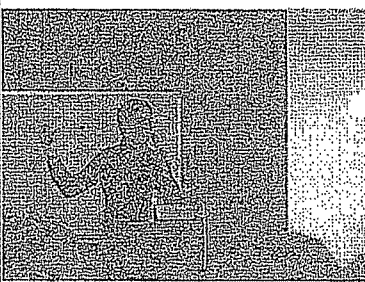
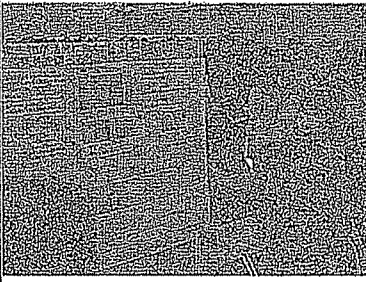
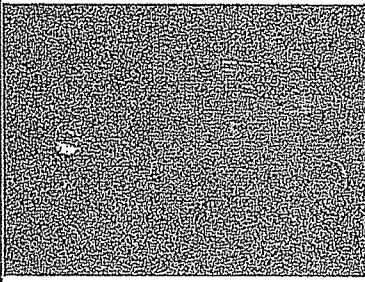
平成23年には名古屋大学主催の「日本数学コンクール」において、最高位の「大賞」を受賞した。

恵那高等学校の取組 (抜粋)

野外セミナー

福井県海浜自然センターを訪れ、磯辺で生物採集と観察を行った。さらに福井県立大学を訪れ、神谷教授らによるウニの受精や海藻の色素分離の実験を行った。



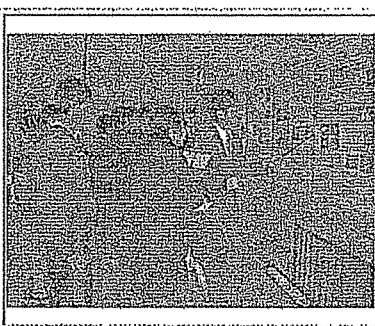
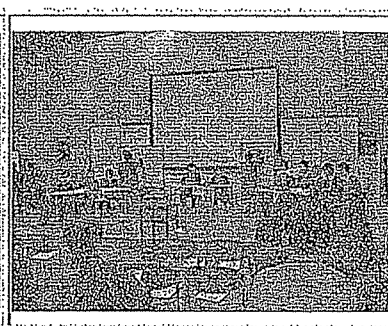
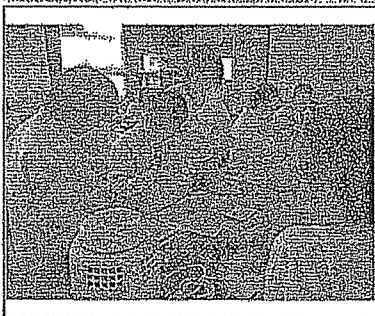

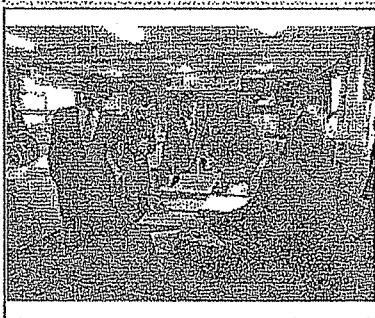
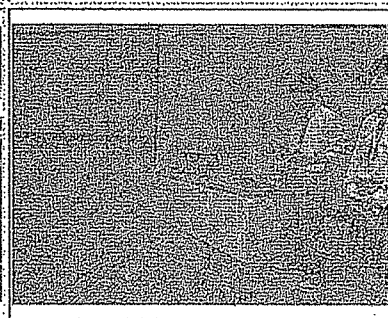
<p>サイエンスパーク</p> <p>地域の小学校や中学校に出向いて、SSHの活動の紹介と科学実験を行い、科学の楽しさを伝えた。</p>		
<p>サイエンスダイアログプログラム</p> <p>大阪大学博士の Timothy John Stasevich 先生を招き、英語での講義を実施した。 演題「Seeing Cells in Action!」</p>		
<p>・課題研究発表会(校内) ・SSH 全国生徒研究発表大会</p> <p>約一年間行ってきた研究の成果発表を行った。研究の要旨は、英語で発表を行った。</p>		
<p><各種コンクールへの参加> 缶サット甲子園、日本数学コンクール、SSH東海地区フェスタ、岐阜県児童生徒科学作品展、日本植物学会高校生研究ポスター発表等</p>		

3. 岐阜農林高校の事例(H24~28)

平成24年に農業高校としては全国で初めて指定を受けた。「バイオ・食・農・環境分野において、生徒自らが課題を発見解決する教育活動により持続可能な社会を担う、国際感覚を身につけた科学技術系人材を育てるシステムの開発」を研究開発課題とし、生命・食品・環境系で農業高校のSSHモデルと言われる学校を目指している。長浜バイオ大学の指導による遺伝子組み換え実験や、岐阜大学応用生物科の指導による実験データを考察・分析を行った。他にも、名古屋産業大学などによる研究内容の講義などを受けている。

平成24年度には、独立行政法人科学技術振興機構主催の「サイエンスアゴラ」において、SSH高校生ディベート部門で最高位の「サイエンスアゴラ賞」を受賞した。

岐阜農林高等学校の取組（抜粋）

<p>課題発見・解決型教育の推進</p> <p>大学等と連携した課題発見の取組等を行うことで、生徒が自らの課題を見つけて解決した。その成果を、研究発表交流会やサイエンスアゴラ等で発表した。</p>		
<p>大学や研究機関との連携</p> <p>大学や研究機関と連携し先端科学技術を体験的に学習することを「継続的」、「体系的」に進めた。</p>		
<p>国際感覚を身に付けるプログラム</p> <p>国際社会で活躍できる国際感覚を身に付けた科学技術者になるため、外国人講師による卒業論文要旨の英語指導や、英語による研究発表を行った。</p>		

4. 岐山高等学校の事例(H15～17, H18～22, H23～24)

平成15年に岐阜県の高等学校として初めてSSHの指定を受けた。「国際性豊かな科学技術系人材としての資質を育むための理数系教育環境の構築」を研究開発課題とし、全教科で「言語能力と科学的及び数学的リテラシーの育成」に取り組んだ。文部科学省からも「好奇心、探究心、発想力、論理的思考力、読み取る力などの向上の点で評価できる」との評価を受けた。また、岐阜大学から1年間にわたり指導を受け、探究活動を行ったり、名古屋大学博物館での研修や京都大学をはじめ多くの大学から先端科学の講座を受けたりした。各種コンクールへも積極的に参加し、日本物理学会をはじめ数々の学会で研究を発表した。

平成15年からの10年間の指定は終了したが、今後はSSH事業で得られた研究成果を生かして、科学教育及び理数系以外の教科での探究的な学習の推進や高校3年間を通したキャリア意識の育成などの特色ある教育プログラムの開発を進めている。

◆ 新たに設置された特色ある理数系の学科

資料5

(教育総務課調べ H25.3)

設置者	学校名	新設学科【設置・改編年度】	SSH	cl 数 対象学科 /全体	他学科	国公立 合格者数 (H24 現役)
札幌市	北海道札幌開成	コズモサイエンス【H16】	H24 指定	2/8	普通	174
横浜市	横浜サイエンス フロンティア	理数【H21】	H22 指定	6/6		61
富山県	富山	理数科学【H23】		人文社 会科学 と括り 2/7	普通 人文社会科学	203
	富山中部	理数科学【H23】			普通 人文社会科学	221
	高岡	理数科学【H23】			普通 人文社会科学	146
静岡市	市立高等学校	探究科学【H23】	H25 指定	1/8	普通	111
京都府	嵯峨野	京都こすもす【H16】	H24 指定	5/8	普通	177
	桃山	自然科学【H16】	H22 指定	2/9	普通	82
	南陽	サイエンスリサーチ【H16】		2/8	普通	135
	亀岡	数理科学【H16】		1/7	普通	34
	西舞鶴	理数探究【H18】		1/7	普通	43
	城南菱創	教養科学【H19】		2/4	普通	17
	山城	文理総合【H19】		1/7	普通	43
	福知山	文理科学【H19】		1/6	普通	79
京都市	市立堀川	自然探究【H11】	H17 指定	4/6	普通 人間探究	127
	市立西京	エンタープライジング科 【H15】		7/7		211
大阪府	千里	総合科学【H17】	H22 指定	4/8	国際文化	57
	住吉	総合科学【H17】	H24 指定	3/7	国際文化	79
	泉北	総合科学【H17】	H24 指定	3/7	国際文化	19
堺市	堺	サイエンス創造【H20】		1/6	機械材料創造 建築インテリア創造 マネジメント創造	4
兵庫県	尼崎小田	サイエンスリサーチ【H15】	H17 指定	1/7	普通 国際探究学	12
西宮市	市立西宮	グローバルサイエンス【H16】		1/7	普通	93
徳島県	城南	応用数理【H18】	H22 指定	1/8	普通	132
	海部	数理科学【H16】		1/4	普通 情報ビジネス	20
長崎県	大村	数理探究【H23】		1/8	普通 家政	144
宮崎県	宮崎北	サイエンス【H16】	H24 指定	1/8	普通	135
	延岡	メディカルサイエンス【H22】		2/6	普通	123

全国の中高一貫教育校の設置状況

資料 6

○ 文部科学省「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について（通知）」（H10.6.26）より
 中等教育の多様化を一層推進し、生徒の個性をより重視した教育を実現するため、現行の義務教育制度を前提としつつ、中学校と高等学校の制度に加えて、中高一貫教育制度を選択的に導入する。

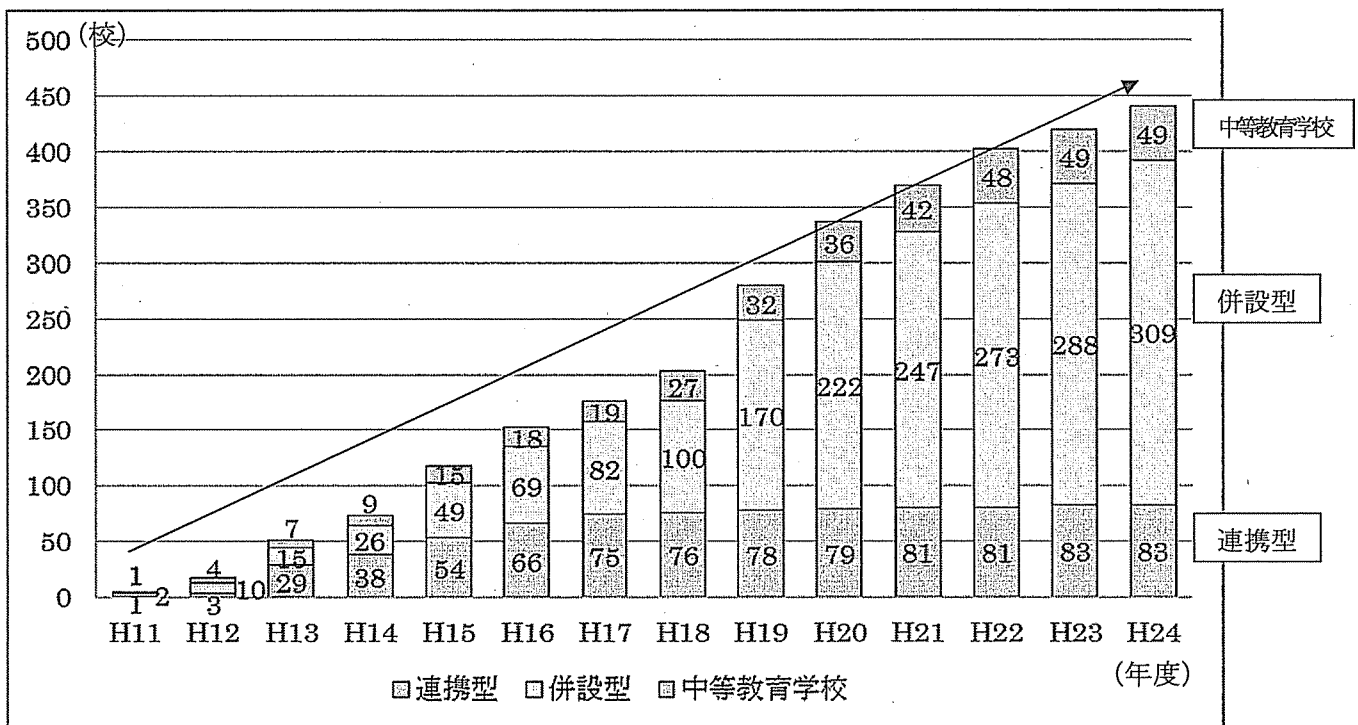
<全国の中高一貫教育校の設置状況> 文科省「高等学校教育の改革に関する推進状況について（H24.11）」より

① 中高一貫教育校数の推移

単位：校

形態 / 年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
中等教育学校	1	4	7	9	15	18	19	27	32	36	42	48	49	49
併設型	2	10	15	26	49	69	82	100	170	222	247	273	288	309
連携型	1	3	29	38	54	66	75	76	78	79	81	81	83	83
合計	4	17	51	73	118	153	176	203	280	337	370	402	420	441

※併設型及び連携型一貫校は、中学校・高等学校1組を1校として集計(以下②、③についても同様)



② H24年度の設置状況の内訳

単位：校

区分 / 形態	中等教育学校	併設型	連携型	合計
公立	28 (28)	74 (69)	82 (82)	184 (179)
私立	17 (17)	234 (218)	1 (1)	252 (236)
国立	4 (4)	1 (1)	0 (0)	5 (5)
合計	49 (49)	309 (288)	83 (83)	441 (420)

※ () 内は H23 年度までの設置校数

※平成 15 年度に和歌山県、平成 21 年度に神奈川県で設置された国立大学付属中学校・県立高校の連携型中高一貫教育校は、公立に含めて集計している。

③ 中高一貫教育校設置状況 (H24 都道府県市別・設置形態別)

単位：校

区分	公立				私立				国立				計			
	中等	併設	連携	計	中等	併設	連携	計	中等	併設	連携	計	中等	併設	連携	計
1 北海道	1		8	9		9		9				0	1	9	8	18
2 青森県		1	2	3		4		4				0	0	5	2	7
3 岩手県		1	2	3		2		2				0	0	3	2	5
4 宮城県		2	1	3	1	7		8				0	1	9	1	11
5 秋田県		3		3		1		1				0	0	4	0	4
6 山形県			2	2				0				0	0	0	2	2
7 福島県		1	4	5		5		5				0	0	6	4	10
8 茨城県	1	1	1	3	2	7	1	10				0	3	8	2	13
9 栃木県		3		3	1	5		6				0	1	8	0	9
10 群馬県	2	1	3	6		3		3				0	2	4	3	9
11 埼玉県		1	1	2				0				0	0	1	1	2
12 千葉県		1	1	2	1			1				0	1	1	1	3
13 東京都	6	5	6	17		5		5	2			2	8	10	6	24
14 神奈川県	2		2	4	3	26		29				0	5	26	2	33
15 新潟県	6	1		7		3		3				0	6	4	0	10
16 富山県				0		1		1				0	0	1	0	1
17 石川県		1	1	2				0				0	0	1	1	2
18 福井県			4	4		2		2				0	0	2	4	6
19 山梨県		1		1		4		4				0	0	5	0	5
20 長野県		1		1	1	3		4				0	1	4	0	5
21 岐阜県			4	4		※6		6				0	0	6	4	10
22 静岡県		3	3	6		12		12				0	0	15	3	18
23 愛知県			2	2	1	5		6		1		1	1	6	2	9
24 三重県			3	3		10		10				0	0	10	3	13
25 滋賀県		3		3	1	2		3				0	1	5	0	6
26 京都府		2		2		7		7				0	0	9	0	9
27 大阪府			2	2	1	8		9				0	1	8	2	11
28 兵庫県	1	1	2	4		5		5	1			1	2	6	2	10
29 奈良県			1	1	1	5		6	1			1	2	5	1	8
30 和歌山県		5	1	6		5		5				0	0	10	1	11
31 鳥取県				0		1		1				0	0	1	0	1
32 島根県			2	2				0				0	0	0	2	2
33 岡山県	1	2	1	4	1	8		9				0	2	10	1	13
34 広島県		2	3	5		4		4				0	0	6	3	9
35 山口県	1	1	2	4		7		7				0	1	8	2	11
36 徳島県		3	2	5		1		1				0	0	4	2	6
37 香川県		1		1				0				0	0	1	0	1
38 愛媛県	3			3	2	3		5				0	5	3	0	8
39 高知県		3	3	6				0				0	0	3	3	6
40 福岡県	1	2		3	1	23		24				0	2	25	0	27
41 佐賀県		4	1	5		5		5				0	0	9	1	10
42 長崎県		3	3	6		5		5				0	0	8	3	11
43 熊本県		3	2	5		6		6				0	0	9	2	11
44 大分県		1	2	3		4		4				0	0	5	2	7
45 宮崎県	1	2		3		3		3				0	1	5	0	6
46 鹿児島県		1	2	3		8		8				0	0	9	2	11
47 沖縄県		1	3	4		4		4				0	0	5	3	8
48 札幌市				0									0	0	0	0
49 仙台市	1			1									1	0	0	1
50 さいたま市		1		1									0	1	0	1
51 千葉市		1		1									0	1	0	1
52 川崎市				0									0	0	0	0
53 横浜市		1		1									0	1	0	1
54 新潟市	1			1									1	0	0	1
55 静岡市				0									0	0	0	0
56 浜松市				0									0	0	0	0
57 名古屋市				0									0	0	0	0
58 京都市		1		1									0	1	0	1
59 大阪市		1		1									0	1	0	1
60 堺市				0									0	0	0	0
61 神戸市				0									0	0	0	0
62 岡山市		1		1									0	1	0	1
63 広島市		1		1									0	1	0	1
64 北九州市				0									0	0	0	0
65 福岡市				0									0	0	0	0
66 相模原市				0									0	0	0	0
67 熊本市				0									0	0	0	0
計	28	74	82	184	17	234	1	252	4	1	0	5	49	309	83	441

(参考)

■ 公立の中等教育学校または併設型中高一貫校未設置県(国立・政令指定都市が設置している県は除く)

○ 7県…山形、富山、福井、岐阜、三重、鳥取、島根 (山形、福井は設置計画あり)

■ H25年度以降の設置予定19校 (文部科学省)

中等教育学校2校(茨城1、札幌市1)、併設型4校(山形1、千葉1、長野1、川崎市1)
 連携型1校(長崎1)、私立12校(すべて併設型)

1 新潟国際高等学校

経緯

- 平成4年国際文化科と情報科学科(定員各学科80名)の2つの専門学科で新設。全県から生徒を集めるため寮設置。平成20年度から括り募集を開始したが、明確な志を持つ生徒を集めるため平成25年度から2学科別募集に戻る。
- 平成25年度海外大学進学コース開設。

教育活動の特徴

- 英語が充実している国際文化科
 - 英会話の授業は1クラスを3つに分け、1グループをALTと英語教員の2人で指導
 - 海外姉妹校(アメリカ、オーストラリア)との交流、海外研修など、積極的な国際交流
- 理数が充実している情報科学科
 - 「数学」、「理科」、「情報」が充実(45単位/108単位)
 - 数学の授業では1クラスを2グループに分けた少人数指導
- 海外大学進学コース
 - 定員10名程度。1年次に国際文化科、情報科学科の両方の科からコースに入る生徒(希望者)を決定。夏休みに海外キャンパスツアーに参加し、10月に短期留学。2年次に学校設定科目※グローバルスタディーズ(GS) Iを週2時間、3年次にGS IIを週4時間受講し、海外大学進学に備える。
 - TOEFL、SAT(アメリカの学生を対象にした進学適性テスト)受験
 - 1学年につき非常勤のALT2名配置。(それ以外に常勤のALTが2名)
 - カレッジカウンセラー(海外大学への進学の相談等)を配置。

※GS:グループワークや英語ディベートなどを通して、課題を発見する能力やその課題を解決する力を養う科目

2 富山県立高等学校「探究科学科」

経緯

- 平成23年 富山県内の5校の理数科を廃止し、富山高校、富山中部高校、高岡高校の3校に探究科学科(理数科学科と人文社会科学科)を創設。

3校共通

- 今後求められる思考力や表現力などを高め、物事の原理や心理を探究する力や幅広い視野を持った生徒を育成することを目標

- 探究科学科として80人を括り募集。

- 1年次は2学科共通の内容を学習

 - 情報検索、データ分析、シミュレーション等の実習

- 2年次より、理数科学科、人文社会科学科に分かれる。

- 外国語関係学科の人文社会科学科

- 語学力を重視し、かつ人文社会科学分野の探究的な学習をする。

- 探究を深める少人数ゼミ(4～5人)

- 自ら課題を設定、探究、解決する課題研究。1グループにつき1人富山大学の教員が
つきアドバイザーを行う。(計16名)

 - ＜研究テーマの例＞

 - 理数科学科・・・「オイラーの定理」「相対性理論の世界」「コロイドの世界」

 - 人文社会科学科・・・「高校生の意識調査(統計分析)」「裁判員制度と市民の意識」

教育活動の特徴

3 京都市立西京高等学校

経緯

平成15年未来社会創造学科エンタープライジング科創設。定員280名(内進生120名 外進生160名) 平成16年より中高一貫教育を導入

教育活動の特徴

エンタープライジング科(エンタープライズ):企業などの他、進取・敢為・独創の意味をもつ)変化と多様化の時代に対応できる、豊かな知識に裏打ちされた独創的な発想力と積極果敢な行動力を兼ね備えた人材の育成を目指す。

1年生後期より、自然科学系コース、社会科学系コースに分かれて学習
創造的コミュニケーション能力の開発

- ・ALT4名による話す、聞く、読む力を育成するERC(English Reading Competency)など多数の専門科目を設置。
- ・専門科目「シンキング・スタイル」
- 最新のIT環境(一人一台のPC、校内無線LAN)を利用して、論文作成に必要な調査手法、文書作法、メディアから受け取る情報を読み取っていく方法など情報活用能力を育成。
- 豊かな経済センスの育成
- ・専門科目「エンタープライズ」の設定(経済を通して世界の動きを学ぶ、グローバルな視点から創造的な力を育成。総合学習に代替)
- ・アジアワールドワーク(コース選択制。マレーシア・タイ・グアム・上海・韓国など。学年末
考査終了後に実施)
- ・大学・産業界から第一線で活躍する人を講師に招いて産業連携教育を実施。

経緯

平成14年から3年間文部科学省のSELHi(スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール)研究指定。平成17年から国際文化科4クラス総合科学科3クラスからなる「国際・科学高校」へ。平成22年から5年間SSH研究指定。

教育活動の特徴

国際・科学高校とは

大阪府で設置する、外国語と情報機器を活用し、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や実験・実習を重視した専門学科を設置した学校。現在の設置数3校(千里・住吉・泉北)。大規模内部改修を実施。

国際文化科

- ・スーパーイングリッシュ(映画で聞き取り練習・英語によるディベート・ALT7名)
- ・最新の設備(3つのPC室・プレゼンテーションルーム・1年生英語でipad)
- ・国際理解(オーストラリア研修旅行・様々な国の留学生との国際交流)
- ・5つの第2外国語(中国語・韓国朝鮮語・ドイツ語・フランス語・スペイン語)

「JETプログラム」や派遣会社を通して語学学校と連携する「E-NET」を利用し講師確保。

総合科学科

- ・理数数学、理数物理、理数化学、理数生物が豊富(1年生計12単位)
- ・実験計画の立案・実施観察・実験合宿・結果整理と考察・論文作成・発表まで小人数グループで行う「科学探求」(例:二足歩行ロボット製作・クローン人参作成)
- ・神戸大学や大阪大学などと連携し、大学での模擬講義や実験指導を受ける。

5 福井県立高志高等学校

経緯

- 平成25年3月、ふるさとに愛着を持ち、福井県の将来を担う優れたリーダーを育てるために、併設型中高一貫教育の導入が必要と判断し設置を決定。
- 附属中学校は、平成27年4月開校の予定。

学校の特徴

- 福井県有数の進学校に併設型中高一貫校を設置予定
 - 福井県内に一校だけ設置。全県から通えるようJR福井駅に近い高校を選定。
 - 現在1学年普通科8クラスと理数科1クラス
→7クラス(内進生3クラス、外進生4クラス)
 - 平成15年からSSHの指定を受け、現在11年目
- 教育委員会の中に「設置準備会議」を設置
 - 県外の併設型中高一貫校(3校)に1年間教員を派遣し、情報を収集中
- 以下の3点を備えた人材を、6年間を通して育成
 - 「地域社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性」
 - 「ふるさと福井への深い知識と大きな誇り」
 - 「世界に通用する語学力と国際感覚」
- 具体的な教育内容
 - 「福井県史」等を活用して福井の歴史を学ぶとともに、地理や産業等についても探究的な学習を行う。
 - 橋本左内の「啓発録」や岡倉天心の「東洋の理想」を英文で読み、自分の考えを英文で表現するなど、先人から福井人の心を学ぶ学習を行う。